

本号では、令和3年度のマッセOSAKA研修研究事業についてご紹介いたします。  
また、マッセOSAKAホームページに最新情報を掲載しておりますので、併せてご覧ください。

## ◆研究事業の紹介◆

研究事業では、市町村独自の政策形成の推進を目指し、広域的あるいは将来的な課題についての調査・研究を進め、新たな行政課題や政策についての提言、情報の蓄積や受発信を行います。

### ○ 研究会

令和3年度は、次の2つの研究会を実施します。詳細については、次号でご紹介いたします。

- ・ 住み続けたいまちづくり研究会  
～エリアマネジメントを基軸として～
- ・ 新しい時代の人材開発研究会  
―自治体におけるこれからの人材育成と  
キャリア形成―



### ○ 地方分権ゼミナール

令和3年度も引き続き、4つの大学院と連携して、より専門性の高い調査・研究を行います。

#### 【大阪大学大学院法学研究科との連携】

受講生の希望により研究テーマを設定し、担当講師と10月から4か月間にわたる研究活動を行います。研究成果のプレゼンテーション発表と論文作成を通して発信力の向上を図ります。

#### 【大阪学院大学大学院経済学研究科との連携】

公共政策に関する特定テーマを設定し、当センター前所長の齋藤慎教授をはじめ、各種分野の専門家による連続講座を通じて現実問題を考察することにより実践的能力の充実を目指します。

#### 【大阪市立大学大学院創造都市研究科との連携】

希望する大テーマを1つ選択し、都市公共政策分野の第一人者をゲストスピーカーとしてお招きするワークショップ（3回程度）への参加を通して、公共政策が直面する課題解決のための研究を行います。

#### 【和歌山大学大学院経済学研究科との連携】

公共政策に関する特定テーマについて研究・検討を行うことにより、実践的能力の向上を図ります。  
(お詫び) 令和3年度「研修と研修」冊子P.66の「地方分権ゼミナール」について、和歌山大学大学院の記載漏れがありました。  
令和3年度も引き続き実施いたしますので、よろしくお願いいたします。

### ○ 研究紀要

市町村行政における喫緊課題を取り上げ、研究者による「政策提言論文集」として発行します。また、府内市町村職員から公募した論文の中から最優秀論文を掲載します。

#### マッセOSAKA公募論文・エッセイ募集!

自治体や行政に関する内容であれば、福祉、教育、環境、行財政などテーマは自由です。ふるってご応募ください。

**応募締切：令和3年9月24日（金）必着**



## 令和3年度 研修紹介

マッセOSAKAでは、これからの時代にふさわしい人材を育成することを目的とし、様々な研修を実施しています。研修はスキルアップだけが目的ではなく、他市町村の職員と共に学び、お互いの課題共有や情報を交換する場でもあります。皆さまの積極的なご参加をお待ちしています！



### 女性職員のためのステップアップ研修

～公務員女子本の著者に学ぶ  
“もやもや” → “イキイキ” 変換術～

- 日程 7月14日(水)
- 講師 長崎県諫早市健康福祉部次長  
村川 美詠 氏

働き手が益々減少していくこれからの社会において、女性職員のキャリアアップは各自治体にとってこれまで以上に重要になります。この研修では、公務員として現役で活躍中の講師をロールモデルとして、リーダー・管理職へのキャリア展望を持ち、イキイキと働くための考え方を学びます！

(締切：6/4)

### 高度情報化社会を見据えた、これからの時代における自治体経営と職員像

～行政学の視点から～

- 日程 9月10日(金)
- 講師 大阪大学大学院 法学研究科  
教授(行政学専攻)北村 亘 氏

現在の自治体や国の動向に加え、これから考えるべき新しい時代の流れを学び、時代を捉える力を身に付けます。また、講義の中で、自治体がとるべき拡大戦略と縮小戦略にも触れる予定です。これからの自治体のあり方や職員像について考えてみませんか？

(締切：8/2)

### 住民に伝わる行政文書やチラシのデザイン術と情報の届け方研修

- 日程 9月8日(水)
- 講師 PRDESIGN JAPAN株式会社  
代表取締役 佐久間 智之 氏

皆さんは普段住民向けの文書を作成するとき、「伝わりやすさ」を意識しているでしょうか。「伝わる文書」は、住民に必要な情報を的確に伝えることができ、住民サービスの向上や問い合わせの削減にも繋がります。広報のスペシャリストである講師と共に、一方的に「伝える」ではなく、「伝わる」行政文書や広報について考えてみませんか？

(締切：7/29)

### 多様性を活かした職場づくり研修

- 日程 9月14日(火)
- 講師 グッドニュース情報発信塾  
大谷 邦郎 氏  
Office Unbalance  
代表 元村 祐子 氏

「ダイバーシティ」は住民サービスのみならず、職場づくりにおいても求められる大きな課題のひとつです。本研修では、講師による講義に加え、当事者のリアルな意見も伺いながら「ダイバーシティ」とは何か、多様性を活かせる職場とは何か、当事者との関わり方について学び、考え、理解を深めていきます。

(締切：8/4)



契約事務基本研修



ファシリテーション入門研修

### リスクセンスアップ研修

- 日程 9月22日(水)
- 講師 株式会社エス・ピー・ネットワーク  
総合研究部総合研究課  
上級研究員(課長) 宮本 知久氏

事務処理上の些細なミスから致命的なトラブルまで、私たちは大小様々なリスクと隣り合わせで日々の業務を行っています。

当研修では「問題に気付く力＝“リスクセンス”」を磨くことで、受講者が未然にトラブルを防ぎ、安心・円滑・充実した業務推進の実現を目指します！

(締切：8/12)

### これからの多様性時代における人材開発の基本と教育体系構築・運営のポイント

～自治体や民間・メンバーシップ型やジョブ型の組織の未来～

- 日程 10月19日(火)
- 講師 株式会社寺崎人財総合研究所  
代表取締役 寺崎 文勝氏

組織の人材開発のあり方は、時代と共に常に変化しています。

当研修では、これからの人材育成の方針、人材育成手法のポイントを学び、多様な価値観を持つ人材の効果的・効率的・実践的な活用について考える機会とします。

(締切：9/6)

### 住民の要望を先取りする“情報感知力”向上研修

- 日程 10月4日(月)～10月5日(火)
- 講師 株式会社行政マネジメント研究所  
客員講師 井上 善海氏

変化する時代において重要な「情報感知力(多数の情報から必要な情報を知覚する力)」と、地域住民の要望を政策に活かし魅力溢れる地域を創発する「創発力(個々人の能力や発想を組み合わせる創造的な成果に結びつける力)」について学びます。

(締切：8/23)

### ハラスメント相談員研修

- 日程 11月26日(金)
- 講師 アトリエエム株式会社  
代表取締役 三木 啓子氏

ハラスメント相談員や人事・人権担当者は、多様化するハラスメント問題への対応が求められます。

当研修では、ハラスメントの定義や現状、相談対応の留意点のもとより、令和2年6月施行のいわゆるパワハラ防止法(労働施策総合推進法)など、最新事例や判例を交えて防止対策について学びます。

研修を通し、様々なハラスメント問題に対応できる職員を養成し、安心して働ける職場環境づくりの一助となることを目的とします。

(締切：10/15)

## 「政策形成実践研修」を実施します！

岬町⇒藤井寺市⇒門真市⇒島本町、これまで4市町をモデル団体として取り組んできた「政策形成実践研修」。昨年度は新型コロナウイルス感染症の影響で泣く泣く中止となりましたが、今年度は感染防止対策を徹底し、モデル団体を「摂津市」にお受けいただき、2年ぶりに実施します！

当研修は、府内市町村からモデル団体を選定し、首長講話やフィールドワークなどを通じて当該地域における課題の把握や調査検討をチームで進めながら、課題解決のための実践的な政策提言を行うことを目的とし、平成28年度から実施しています。



研修の様子



政策提言プレゼンテーション

前回のモデル団体は「島本町」で、8名の市町村職員が6月に山田島本町長から同町が抱える課題や今後の展望などをヒアリングさせていただき、政策提言まで5か月の研修に取り組みました。講師として、関東学院大学法学部地域創生学科准教授の牧瀬稔先生から指導・助言を受け、10月に「政策提言プレゼンテーション」を開催し、山田町長をはじめ幹部等職員の前で政策提言を行いました。結果的に、「保育土宿舍借り上げ支援事業」が実際に事業化されることになりました！

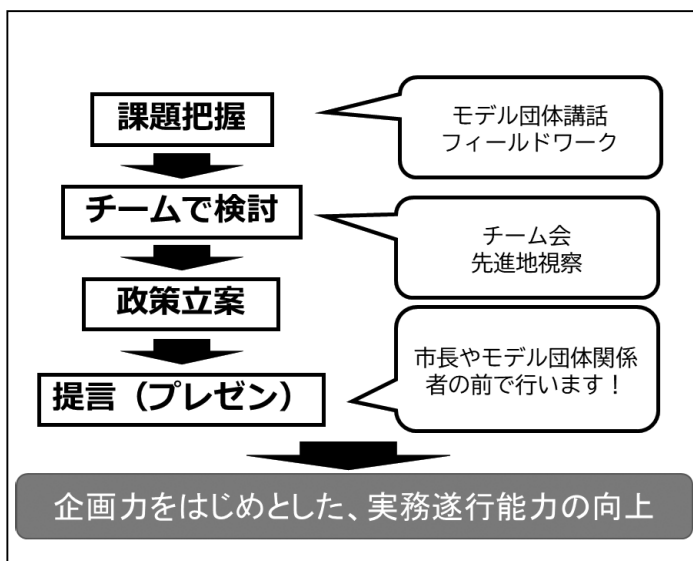
当研修は、メンバーやチームの個性が、提言内容に色濃く反映されます。本年度はどのようなメンバーが集まりどのような提言がとび出すのか!? 乞うご期待！

前回のモデル団体は「島本町」で、8名の市町村職員が6月に山田島本町長から同町が抱える課題や今後の展望などをヒアリングさせていただき、政策提言まで5か月の研修に取り組みました。講師として、関東学院大学法学部地域創生学科准教授の牧瀬稔先生から指導・助言を受け、10月に「政策提言プレゼンテーション」を開催し、山田町長をはじめ幹部等職員の前で政策提言を行いました。結果的に、「保育土宿舍借り上げ支援事業」が実際に事業化されることになりました！



山田町長を囲む牧瀬講師、林センター所長、受講者

### 研修イメージ



### こんな方にオススメです

- 政策の企画立案をしてみたい方
- 今持っている知識・経験を試したい方
- 他団体の職員とネットワークを広げたい方
- 課題発見・検討を現場でやってみたい方
- 所属団体を良くしたいと志を持っている方

## 令和2年度 研究成果報告会を開催しました！

「食」で考える大阪の持続可能な観光研究会  
(指導助言者) 立命館大学食マネジメント学部教授 高田 剛司 氏

当研究会は、立命館大学食マネジメント学部の高田剛司教授の指導のもと、令和元年度から調査・研究を2か年にわたって進めてきました。観光において重要な地域資源の1つである「食」に焦点を当て、観光の持続可能性という観点を踏まえながら、地域資源を活かした取組みについて研究を行い、最終的に各研究員がそれぞれの所属団体に對し、具体的な観光施策を考案しました。

その2年間の研究成果を報告すべく、令和3年3月22日(月)に研究成果報告会を実施しました。

報告会冒頭、高田教授より研究の背景、研究内容についてお話しいただきました。

その後第1部では、「ビレッジブライドについて」と題し、「食と農」をキーワードに「A級グルメのまち」として地域を盛り上げる仕組みづくりに大いに寄与されている、島根県邑南町商工観光課長の寺本英仁氏にオンラインでご講演をいただきました。

第2部では、研究員それぞれが、自身の提言内容について個性溢れるプレゼンテーションを行いました。

参加者からは、「各市の現状分析と特色を活かした施策提案はいずれも興味深かった。」「内容がわかりやすく、実体験に基づいた提案には説得力もあり、大変良かった。」などのお声をいただきました。

ご参加いただいた皆さま、ありがとうございました。



オンライン講演の様子



高田講師と研究員



当研究会では、研究成果として令和元年度に中間報告書、令和2年度に最終報告書を発刊いたしました。研究員それぞれの所属団体における食や観光に関する取りまとめや現状分析、観光方策の提案、有識者の講義録・講演録が掲載されています。

各自治体の今後の観光施策検討の一助となる内容になっています。マッセOSAKAで配架しておりますので(無料)、ぜひご一読ください！

### 研究員(6名)

市町村名	所属(令和3年3月現在)	氏名
茨木市	産業観光部 商工労政課	上山七彩
枚方市	観光にぎわい部 観光交流課	笠井里紗
河内長野市	環境経済部 産業観光課	田中智也
富田林市	市長公室 人事課	村上絵里子
岸和田市	魅力創造部 観光課	畑部 徹
泉南市	市民生活環境部 産業観光課	城野博文

## 帰任職員紹介

令和2年度末をもって派遣期間を終え、派遣元へ帰任した職員を紹介します。

たつ た ゆう  
**立田 雄** (箕面市へ帰任)



平成30年度から3年間、皆さまには大変お世話になりました。私にとって、この3年間は業務を通して大きく視野を広げることができ、貴重な期間となりました。

講師の方々や大阪府内・全国の市町村職員の方々、民間企業の方々などと交流を深められたことが、一番の財産になりました。

また、業務を通じた成長だけでなく、今後の生き方を学ばせていただいたことが何より成長したと思います。

マッセOSAKAでの日々は、冗談を言い合いながら和気あいあいと働くことができ、本当に楽しい日々でした。

帰任後は、市民部の市民サービス政策室に配属になりました。

地域住民の皆様とともに、箕面をより一層魅力ある街にするべく日々努めております。

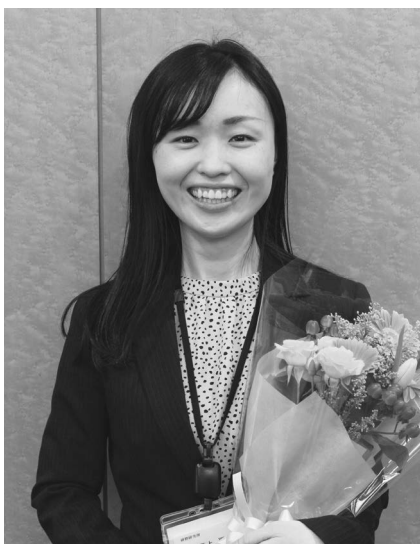
この3年間で培ったご縁を大切に、引き続き楽しみながら頑張りたいと思います！

最後になりましたが、在任中お世話になりました全ての方々に厚く御礼申し上げます。

そして、今後ともどうぞよろしくお願いいたします！



うまがみ かほ  
**馬上 夏穂** (門真市へ帰任)



令和元年度から2年間、皆さまには大変お世話になり、ありがとうございました。

門真市にて国民健康保険料の業務にしか携わっていなかった私にとって、マッセOSAKAでの仕事は新しいこと尽くして、刺激的な日々でした。特に、研修やセミナーを企画する際には、政策課題や実施に対するニーズを把握する必要があり、頭を抱えることも多かったですが、たくさんの方に助けていただき、充実した2年間を過ごすことができました。

そして、何より多くの方々との出会いに感謝しております。研修講師の方々をはじめ、大阪府内の市町村研修担当の皆さま、全国の市町村職員の皆さま、民間企業の方々とお交流させていただいたことは、私にとってかけがえのない財産となりました。

帰任後は人事課人事研修グループに配属になりました。マッセOSAKAで学んだことを活かしながら、2年間で培ったご縁を大切に、引き続き頑張りたいと思います。

最後になりましたが、この場をお借りしまして、在任中お世話になりました全ての方々に厚く御礼申し上げます。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。



## 新派遣職員紹介

令和3年4月からマッセOSAKAの仲間に加わった職員を紹介します。

きたぐち  
北口 あゆみ (枚方市から派遣)



この度、枚方市より派遣で参りました北口と申します。

入職から4年間生活保護のケースワーカーを担当していました。初めての異動がマッセOSAKAへの派遣となり、毎日緊張しています。

ケースワーカー業務もやりがいのある仕事でしたが、そろそろ異なる業務も経験してみたいと思っていたところに今回の派遣のお話をいただき、出向させていただくことになりました。研修の企画・運営というこれまでと大きく異なる業務に戸惑ってばかりの毎日ですが、皆様のやさしさに包まれながら日々過ごしています。

せっかくいただいたチャンスが無駄にすることなく、たくさんのお客様の経験を積み、多くのことを吸収したいと思っています。頑張りますのでどうぞよろしく願いいたします。



やまね りょうへい  
山根 諒平 (摂津市から派遣)



この度、派遣で参りました摂津市の山根と申します。

私は平成29年10月に中途採用という形で入庁し、3年半の間、国民健康保険料と後期高齢者医療保険料の徴収の事務に携わってまいりました。

今回、マッセOSAKAとのご縁があり、なかなか経験できない業務をさせていただくこととなりました。自分自身、研修を受講することはありましたが、研修を運営する立場というのは初めてで、右も左もわからない状態です。今までとは全く違う業務なので、至らない点も多々あるかと思いますが、精一杯頑張っていきます。

2年という短い期間ですので、1日1日を無駄にせず、皆さんのためにも頑張っていきたいと思っております。よろしく願いします。



## 研修研究部(マッセ OSAKA)のご紹介

所長の**林宏昭**です。今年度は昨年に引き続き、コロナ禍のなかでの研修・研究事業の展開となりました。昨年度は、企業も学校もそして官公庁も対応に追われましたが、その間に、オンラインの活用を柱とした様々なノウハウが蓄積されました。一方で、インフラ整備の状況のばらつきや有効な活用についての課題も明らかになってきました。マッセ OSAKAに限らず、研修・研究事業は職員の対応力や発想力の向上を通じて、社会に貢献することです。当研修所としても、試行錯誤しながらにはなりますが新たな手法を交えながら、これまで以上に研修内容の向上と研究の発展を目指してまいりますので、引き続き、どうぞよろしくお願いいたします。

最後になりましたが、感染症によって大きな影響を受けられた方々に心よりお見舞い申し上げます。そして、感染リスクの中で、市民の日々の生活を維持するためにご尽力いただいている皆さま、また、感染症と向き合って医療、看護に当たっておられる皆さまに深く感謝いたします。

研修研究部長の**辻**です。新年度に入り、特に大阪では新型コロナウイルスの感染が急増し、様々なところに影響が出始めています。こんな時にこそ、スタッフの知恵を借りながら、楽しく、創造的に仕事をしたいと思っています。市町村の皆様には、何かとご不便をおかけしますが本年度も「マッセ」をよろしくお願いいたします。

忠岡町から派遣の**田邊**です！ 派遣2年目になりました。コロナで憂鬱なニュースが多い情勢やからおもしろきこともなき世を面白くと思っています！引き続きよろしくお祈りいたします！

摂津市から派遣の**山根**です。吸収できることは精一杯吸収し、充実した1年にしたいと思います！ 頑張りますのでよろしくお祈りいたします！

身長187cm、柏原市より派遣の**長町**です。研修時に妙に背の高い人間がウロウロしていたら多分私です。

**\*\*\*マッセ事務補助員\*\*\***  
**中畑** 今年で3年目になりました。昨年からコロナ禍での研修となりましたが、今年は昨年より充実した研修となるように頑張ります。  
**山田** 今年で2年目になります。去年より前進したと思えるよう頑張りたいと思います。よろしくお願いいたします。

研修研究部の**西尾**です。年度当初から新型コロナウイルス等の感染症により、研修・研究の実施形態に苦慮しているところです。本年度も計画に基づき、必要な対策を図りながら着実に実施してまいります。府内市町村に安心して受講できるよう準備を進めておりますので、ご参加お待ちしております。

枚方市から派遣の**北口**です。多くの経験を積むとともに、自身も研修に参加し多くを学んでいきたいです！ よろしくお祈りいたします。

**乾**です。研修研究部の主任研究員を仰せつかり4年目は絶対ないと思っていたのですが「留任」と相成りました。もといマッセでは市町村からの派遣職員をお迎えして事業運営に携わっておりますが、派遣職員の皆さんの頑張りには感服します。特に研究会。中期ビジョンで掲げた「1人1研究」は派遣元市町村への研究会提言のフィードバックが住民福祉の増大に寄与するものと信じています。母体である振興協会の財政状況は厳しさを増すばかりですが研修研究の分野において市町村の皆様のサポート機関として、できる限り努めて参りますので1年間どうぞ宜しくお願いします。(合掌)



**(北口)** 昨年度の人間ドックで体脂肪率が上がっていて驚愕しました。もともと活発な方ではありませんでしたが、外出自粛により引きこもりが加速していることが要因のようです。何となくだらしない身体になっている気はしていましたが、数字で表れるとショックが大きいです…。再び新型コロナウイルスの感染者数が増加していますが、感染対策とともに、体力低下にも気を付けていきたいです。皆様も感染対策と健康維持管理にはお気をつけて、元気に研修を受けに来てください！

**(山根)** 新型コロナウイルスの影響で、自分が趣味で行っていたフットサルに行けなくなり、運動していないことによる、体重増加とスーツが着れなくなるのでは・・・という恐怖に怯えている今日この頃です。一人でできる趣味ないかなと探してはいますが、家族との協議が難航しており、いまだ決裁はもらえておりません。最大の要因はもしかしたら父の威厳が足りないのかもしれませんが、今後、家族会議での父の威厳を回復するために皆さん応援よろしくお願いいたします。(笑)

今号は  
北口&山根です！







JIAM「振興協会・自治体研修機関連絡会議」

on the WEB!! の巻

研修研究部 長町 俊平

令和3年4月26日、全国市町村国際文化研修所の「令和3年度振興協会・自治体研修機関連絡会議」に参加しました。当会は当初、会場に集まって2日間の日程で行われる予定でしたが、新型コロナウイルス感染症の状況を鑑み、日程を1日に短縮し急遽オンラインでの参加環境を整えていただきました。

冒頭、全国市町村研修財団から令和3年度の事業計画説明をいただき、その後2部制で講演会を設けていただきました。

前半は、「歴史から何を学ぶか 一いまを豊かに生きるために一」と題し、静岡大学名誉教授の小和田哲男氏よりご講演いただきました。小和田氏は日本中世史、特に戦国時代史を研究分野とされており、大河ドラマでも数多くの時代考証を担当されています。(直近の「麒麟がくる」でも担当されていました!) その際のエピソードも織り交ぜながら、「歴史は鏡、過去を映しながら未来も映す。過去を学び、先人の知恵や成功、失敗からこれからの未来をどう生きるか考えることに歴史の意義がある。」「歴史は地域資源にもなり、観光や魅力再発見の起爆剤になる。」など、印象的なお話を数多くいただきました。

後半は、NPO法人アサーティブジャパンの牛島のり子氏より、「多様な価値観をもつ相手とのコミュニケーション」と題し、アサーティブコミュニケーションについて講演いただきました。組織にとって、価値観の違う相手との円滑なコミュニケーションは大事な要素です。価値観の違いを認めつつも、要望や提案を誠実・率直に伝え、何よりもその場の結果だけではなく中長期的な信頼関係と成長を意識することが大事であることを改めて学びました。

コロナ禍で思うように出張ができない中、様々な団体で素晴らしいオンライン研修・セミナーが開催されています。実際に聴講できる機会が少ないことは大変残念ですが、オンラインの「移動の必要なく気軽に受講できる」メリットを活かし、前向きに様々な研修・セミナーを受講していきます! マッセでの修業はこれからも続く!

みやまぼんご

A 「今年度から派遣で来たBさんCさんが京阪電車ユーザーなので地元仲間ができて嬉しいですね!」

B 「よろしく願います!お互い悪いことできないですね(笑)」

C 「京阪電車ユーザーの方が多くて嬉しいです! OO駅前も最近だいぶ変わりましたよね」

A & B 「わかる!ほんまにそうですよね!」

B 「ちなみにDさんはどちらから通勤してはるんでしたっけ?」

D 「南海沿線です! (※正確には泉北高速沿線) 全然京阪沿線が分からないんで京阪の地元情報また教えて下さいよ!」

C 「(大阪市から) 方向が逆ですもんね。僕も逆に南海沿線はあんまり行かないので未知ですもん。Eさんはどちらから通ってはるんでしたっけ?」

E 「僕は、近鉄沿線から来ます。やはり京阪沿線も南海沿線のことまた色々教えてください!」

こんな感じで各地からみんな出勤してマッセOSAKA。



づくり団体が中心となり、活動を実験的にスタートさせたが、2018年からこのTCCMが本格的に運営を行うこととなった。公的空間の管理になるので、行政との協議も欠かせない。警察との協議を重ね、「赤い線」で「歩道」と「たまり場」を仕切ることで境界合意に達した。

現在では駅前広場7か所を一体で管理することとなっている。また、「利便増進協定」と呼ばれる民間主体の地域活性化計画がTCCMにより行政に提出され、ビル群が立ち並ぶ道路空間において、様々な活性化イベントが模索されている。コロナ禍の現在、消毒対策や三密対策を施したイベントなども計画されており、こうした組織の存在は特に今の時代には地域の事業者に安心感を与える。

### 行政に期待される役割

さて、こうしたエリアマネジメント方式であるが、行政はどのようにかかわったらよいのだろうか。以下にまとめたいので参照されたい。

第1に行政関係の皆さんは民間と行政との橋渡し役をおつとめ頂ければと思う、という点である。

先ほどの豊田市の例のように、活動の主体が「都市再生推進法人」と呼ばれる団体のケースが多いが、これに指名されれば民間団体は「利便増進協定」と呼ばれる民間主体の地域活性化計画が提出できるようになる。つまり、民間団体でありながら、地区計画のようにある程度のまちづくり活動（特定エリアの管理）を主体的に実施できる。「業務の範囲」などの詳細については2011年の都市再生特別措置法改正を参照されたいが、行政との施策・事業のすみわけの理解のためにもこうしたルールについては是非知っておいていただければ幸いである。

第2に、エリアマネジメント団体はイベントの実施を行う際に道路を利用・占有するケースが多い。歩行者道路や一般道などの許認可については、近年国土交通省も「ウォーカブルなまちづくり（居心地がよく歩いて楽しいまちづくり）」を推進しており、エリアマネジメント団体による道路利用の動きを後押ししている（都市再生特別措置法等の一部を改正する法律（令和2年法律第43号）（令和2年9月7日施行））。

国土交通省はまちなかにおける交流・滞在空間の創出に向けた官民の取組をまちづくり計画に位置付けることができるような制度的枠組みを構築している点も重要である（法律・予算・税制のパッケージによる支援を行う）。

このように、「歩いて楽しい」まちづくりへ向けて規制緩和の方向に動いているのが近年の政策的な大きな流れだが、こういう民間団体がいたらぜひ上記の流れをもとに自治体レベルでも応援していただけたらと思う。

第3に、エリアマネジメントの到来は「新しい」官民連携時代の到来でもあると考えられる、という点である。

というのも、行政頼みまちづくりでもなく、民間だけのまちづくりでもない。「コミュニティ」「にぎわい」を官民が「共創」する時代の到来ともいえる。しかも、この「共創」の「結果」、「効果」が明確に示される時代の到来でもある。

イギリスでは、あるエリア（商業ビジネスエリア等）において、エリアマネジメント活動が実施される際に、その実施の是非を問う投票が義務付けられている。一般的な法人税などの納税義務に加え、エリア内の事業者は拠出金（BID＝一種の課税）を支払う義務が発生するからである。該当エリアの事業者の過半数の賛成（事業者の面積規模にもよるので、財産規模の過半数も同時に取得しなければならない）を得る必要がある。

5年後に再びこうした「投票」が行われ、エリアマネジメントの再実施か否かが決まる。つまり、この5年間のまちづくり活動に「効果がある」と利害関係者が判断すれば「継続」になるし、その逆のケースでは「撤退」という判断が下される。エリアマネジメント団体は5年間結果を出そうと必死になる。その結果、道路の使用許可やイベント実施において行政との連携プレーが不可欠となる。つまり、官民の見事な連携プレーの中で「競争原理」が働く。日本の制度はイギリスの制度と異なり「投票」による意思決定はされないが、「結果」が問われる点には変わらない。官民のより一層の密な連携が期待される。

エリアマネジメント時代の到来は、これまでのまちづくりを一変させる。結果に対しても責任を持つ。また、参加者のやる気を駆り立てることで、ソーシャルキャピタル（社会共通資本ともいうが、人々のきずなのようなもの）をより強いものにするであろう。こうした変化をプラスにとらえ、是非皆さんの現場でもエリアマネジメント型のまちづくりを支援（共創）していただけたら幸いである。

#### ◇ 執筆者Profile ◇

足立 基浩  
和歌山大学経済学部教授 副学長（2017年から）  
紀陽銀行 社外取締役（2019年6月から）

1968年生まれ 東京出身。市川高校（千葉県）、慶應義塾大学経済学部卒業後、新聞記者等を経て、2001年ケンブリッジ大学大学院土地経済学研究科にて博士号（Ph D）を取得。2015年和歌山大学の経済学部長を経て、現在は同大学副学長、経済学部教授。地域再生とまちづくり・都市再生に関する研究が専門。主な出版物は「シャッター通り再生計画（ミネルヴァ書房）2010年」で、2012年不動産協会賞を受賞。2021年2月には晃洋書房から「新型コロナとまちづくり」を出版。国土交通省「まちづくり活動の担い手のあり方検討会」（2017年）、座長。経済産業省「人材育成委員会」（2018年）委員。日本商工会議所「補助金に頼らないまちづくりタスクフォース（2018年から現在まで）」座長。内閣府「中心市街地活性化推進委員会（平成25年）」委員。

シリーズ  
**バトンタッチ**  
第184回

研修担当課の皆さんが、次々に仲間を紹介し、ネットワークを広げます。

今回は、高槻市の高山さんからのご紹介で…



吹田市人事室 田中 友梨さん

◆吹田市の風景をバックに「すいたん」と一緒に

高槻市人事課の高山さんからバトンを受け取りました、吹田市人事室人育成担当の田中です。私は入庁後9年間教育委員会で青少年と関わるお仕事をし、人事室には昨年異動になりました。マッセOSAKAでは、働き方改革と組織マネジメントの二つの研究会でお世話になり、また広域研究活動支援を受けて更に2年間の研究活動を行いました。大阪府下の多くの職員の方と知り合うことができたのは、何よりの財産です。

今年度もコロナ禍の中で研修を実施する私たちには柔軟で臨機応変な対応が求められますが、今回培われた経験はコロナが終息した後様々な業務で生かされることと思います。マッセの研究会での経験が、現在私が業務に当たるうえでの大きな指針になっているように、この試練をプラスに捉えて前に進んでいきたいものです。

困難な状況が長期化する中で、ご苦勞の絶えないことと存じますが、マッセOSAKAのご担当者様はじめ、府内各市町村研修担当者様のご健康とご多幸をお祈りしております。次回は、研究会でお世話になった河内長野市の阿部さんにバトンを繋ぎたいと思います。よろしくお祈りします！

次回は、【河内長野市の阿部さん】にバトンタッチ！

お知らせしマッセ

☞ 研修は軽装受講可能! 暑さ対策は万全に!

マッセOSAKAが主催する研修は10月末日までNOネクタイ・NO上着など公務に適切な軽装の範囲で受講していただくことが可能です。

特に新型コロナウイルス感染防止の為、研修室は「窓を開放」状態にする場合があります。暑さ対策を十分にしてお越し下さい。

🏠 サマージャンボ宝くじのお知らせ

もうすぐサマージャンボ宝くじの季節です。

サマージャンボ宝くじの収益金は、公共事業をはじめ、少子・高齢化対策、地域情報化対策などの事業に活用されており、市町村の明るく住み良いまちづくりに使われています。ぜひ大阪府内の宝くじ売り場でお買い求めください。

【発売期間】7月13日(火)～8月13日(金)

インターネットでも宝くじが買える!

詳しくは「宝くじ公式サイト」を検索!

「宝くじ☆買うんやったら☆大阪で!」

📌 新型コロナウイルス感染防止対策について

研修やセミナーにお越しになる際は以下の取り組みにご協力をお願いします。

- ① 受付時の発熱の有無・体調の確認
- ② 身体的距離の確保
- ③ マスクの着用
- ④ 手指消毒の励行



✍ ちょっとMAME知識 📖

おもて表紙で「地方分権ゼミナール」は4つの大学院で学べることをご紹介しました。

ご存知でしたか?ただ単に学べるだけじゃないんです。実は「科目等履修」という仕組みを利用し、一部の大学院では「単位取得」も目ざせます。

詳しくは所属の研修担当課まで!

重要なお知らせ

☆新型コロナウイルス感染拡大に伴い、中止や延期、または開催方法を(オンライン配信などに)変更する場合があります。

来所前には、研修担当課にご確認ください!